

健康と光線

薬害から身を守る

投薬行為が医師に独占的に委ねられているのは、薬が毒物であり害があるからであり、一歩間違えれば、薬害だけが残るからである。無論、薬の中には害以上効果のある薬もある。しかし、大半の薬は見掛けの症状を抑える対症療法薬で、実際に病気を治すのは各人の自然治癒力のなせる技なのだ。それ故、薬害を避けるためにも、薬の乱用は厳に慎まなければならない。然るに、わが国では六兆円もの大金が薬価として支出されており、試算では半分の三兆円の薬は捨てられていて、薬を捨てた人の中には、医者に悪いから薬は貰ったが頭から飲む気はない、という人すら居るのである。

何事によらず、素人の直感の時として恐ろしいほどの射ていることがある。病気がなつたら、診断は専門医に任せざるが、薬を飲むか飲まないかは自己の判断を優先させると言う人がいるが、これほど薬物療法の限界を見抜いた見識はないのかも知れない。現に殆どの場合、薬を

捨ててしまっても、ちょっと症状を我慢するだけで治ってしまふ。病を癒すのは時間にして薬に非ず」とも言うが、薬で時間稼ぎをしてはならない。

症状は病気を治す生体反応

症状は異常を教えてくれるだけでなく、病気を治す上で必須の生体反応が起きたことを示している。例えば、捻挫や打撲は誰にも馴染み深いものであるが、腫れたり痛んだりするのを有難いと思う人はいないだろう。しかし、腫れたり痛んだりするのは、生体に備わった優れた防御機構の一つで、病気を治す作業が始まった証である。

反面、誰でも、どんな些細な症状でも、嫌なものである。その上、病気が治れば必ずと症状もなくなることを知っているのに、症状がなくなることを願うのは当然である。これが対症療法薬の普及を促し、治療効果が中途半端でも、少々副作用があってもないよりは増しと考えたのである。それが時代の推移に連れ

発行所
〒153 東京都目黒区目黒
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行
会費年500円
電話 東京(03)
3793-5281
3712-5322

自然治癒力を見直そう

— 対症療法で解決しない問題 —

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

落ちたと言っても、今も皮膚科ではアトピー性皮膚炎を始め大半の皮膚疾患で使われている。問題は即効性のある薬が使用されるようになってから、却って経過を遷延させ、慢性化させたのではないかと言うことである。

落ちたと言っても、今も皮膚科ではアトピー性皮膚炎を始め大半の皮膚疾患で使われている。問題は即効性のある薬が使用されるようになってから、却って経過を遷延させ、慢性化させたのではないかと言うことである。

自然治癒力を増すサナモア

薬物療法の歴史を顧みると興味ある事実が気付く。十九世紀初頭の医師、ハー

ネマンはホメオパシー(同種療法)を唱え一派をなすのであるが、ホメオパシーとは、特定の症状を起こす薬は、同様の症状を持つ病気に効く」という治療法で、考え方は現在の対症療法とは正反対である。ここでこの話を持ち出したのは、治癒とい

うことの神秘さを知って貰いたためである。意外かも知れないが、今でも大半の病気がどのようにして起こり、どのようにして治るのか、誰にも分からないことだらけなのだ、少なくとも自然治癒力を軽んじてはならない。

父が東京光線療法研究所を設立

あけまして

おめでと

ございます

平成五年 元旦

サナモア光線協会

(六日より営業します。)



一般参賀

宇都宮義真撮影



人生最大の敵

ドイツに「人生は戦いなり」

(Das Leben heist Streben.)

という諺があります。このように人生はよく戦争に例えられます。病気についても、例えば結核菌という名の目に見えない敵が絶えず飛び回っていて、取り付く相手を捜して音もなく爆弾の雨を降らしています。未だに原因の分からない難病、奇病も数多くあります。その中で身体は自己を守るため悪戦苦闘を強いられています。

人生という勝つか負けるかの戦場で、武器を忘れては問題になります。武器には、体力、気力、知力など様々なものがあります。そのあらん限りを活用して、あらゆる面で大いに戦果を拡張しなければなりません。があり余る才能を持ちながら病弱なため落伍者になる人も決して少なくありません。

「男一匹、病気さえしなければ何とかなる」といわれます。如何に知力に恵まれていても、病気になっては人生の勝者にはなれません。人生という航海で

最大の敵は病気なのです。

安全保障

今日では、どんな山間僻地でも、ある程度の医療設備が行き届いていますから、病気になっても心配は要らないと思っている人がいますが、如何なる安全保障も、自国に自国を守る力がないければ真の国防にならないように、最新の医療設備があっても、身体に身体を守る力がなければ効果は半減以下になってしまいます。

サナモア光線療法は、太陽光線の作用を応用した治療法で、身体に働き掛けて身体に身体を守る力を付与する健康法を兼ねた治療法です。従って、何時でも使用出来ますし、甲の病気には効くが、乙には効かないという不徹底な治療法ではありません。慢性病には良いが急性病には悪いという様なものでもありません。内科にも外科にも良い、大人にも子供にも良い、女子にも男子にも良い治療法です。人間ばかりではありません。犬や猫や馬や牛の様な動物にも効果があります。草や木にも応用出

来ます。

あらゆる生物、あらゆる生命のもとには光線です。この光線を病気の予防、治療に応用したのがサナモア光線療法です。古来から「予防は治療に優る」と言われますが、治療の理想は予防法と合致することです。サナモアは予防、治療の両面から身体

自己を武装せよ

宇都宮 義真

我が家にサナモア

病気と治療の関係は、戦争に例えれば攻撃と防御のようなもので、防御に弱点があれば勝敗の帰趨は直ぐにも決まっています。防御が手薄で下手なれば、一生病苦に泣くことにな

ります。

病気は火事に似ています。火事になっても早く気が付けば、素人でもバケツ一杯の水で消せますが、完全に火の手があがってしまったら、専門の消防士が設備の整った消防自動車に乗って来ても、少なくとも一軒は燃してしまわうでしょう。病気もサナモアがあれば、火事を消防士の来る前に消し止めるように、大事に至る前に治すことが出来るのです。

仕事も大切です。しかし健康はより以上に大切です。サナモアは科学的な根拠に基づく合理的な治療法です。昔、武士が貧乏のどん底にあっても、万一の準備に、決して甲冑や刀剣を離さなかったように、今日のように生存競争の激しい時代には、各家庭にサナモアを取り揃えて欲しいと思います。そして自己と家族を充分武装して、第一線で活躍されんことを切望します。

「光と熱」

昭和十三年四月一日発行

— 自己と一家を武装せよ —

昭和十三年六月一日発行

— 電磁波 —

より要約した。

くの病める人々の治療や主人や家族の治療や自分自身の治療に全身全霊を打ち込んだ日々を過ごして来ました。治療している時だけは、極楽浄土にいる思いがします。私の周りに、私の考えに同感して下さる方々が随分いますが、今でも年々増えていくことは感謝、感激の極みであると同時に、私の生き甲斐です。

福岡県春日市桜ヶ丘

TEL〇九二一五八一—二〇三九

日本療術学会から

秋田ビューホテル

平成四年十二月一日

光線療法を併用した
消化器腫瘍の三例宮城県療術師協会
鈴木マサ子

(目的)

消化器腫瘍の診断を受けた三症例に光線療法を行う機会に恵まれ、示唆に富む興味ある知見を得たので報告する。

(症例)

(症例一) 48歳 男性 会社経営

診断 胃ポリープ
起始終過 胃痛、食欲不振、便秘があり、病院で胃腸の精密検査を受けたところ、胃に大豆大のポリープが三ヶ所見つかり

手術を薦められたが、仕事は忙しいし、手術をするのも恐いので、そのまま帰宅して経過を追うことにし、その間、光線療法を行った症例である。

本例は平成2年8月6日に来院した。来院時、上腹部から下腹部にかけて異常に固く、石のようなシコリと圧痛があった。

治療 BDカーボンを使い、五台の治療器で、足裏、上腹部、下腹部、腰、背中に各一時間照射した。本例は最悪の事態を考慮して時間を長めに照射したが、終わった後、気持ち良く、これは良さそうだ、と言っていた。

なお治療効果の面から毎日照射しなければならぬことを話し、仕事の関係もあって、翌日から在宅で治療した。治療には二台の治療器を使い、朝は腹と背中に一時間、夜は足裏と膝に三十分、腹と背中に一時間半以上照射した。なお相当に発汗するので、水分の補給を忘れないよう指示した。

結果 治療を始めて約十日で、腹痛、便秘が治り、食欲も増してきた。一ヶ月経過した頃には、腹部が柔らかくなったのはびっくり自覚するようになった。同年

10月30日に改めて胃腸の検査を受けたが、きれいな胃で何処も何ともありません、と言われた。

(症例二) 64歳 男性 会社役員

診断 食道腫瘍

起始終過 最初は酒が不味くなり、御飯を食べるとつかえていたが、段々と水も受け付けなくなり、ついに吐くようになった、と平成2年10月4日に相談に見えた。多分、食道の腫瘍だろうと思い、精密検査を薦め、翌5日に検査を受けたが、食道噴門部、肺、直腸に腫瘍があると診断された。

治療 本人が光線を照射して自覚症状が良くなってから手術をしないと希望したこともあって、10月6日から入院した10月11日の朝まで、在宅治療で、三台の治療器を使い、BDカーボンで、肛門、腹、背中に各四時間ずつ、一日二回照射した。

結果 三日後に水が通るようになり、入院した10月11日の朝は、御飯を食べてもつかえなくなった。なお入院してから10月24日に食道部の手術を受けるまで、病院の粥食を断り普通食で過ごしたと言う。

手術を終えて退院してからは、ADカーボンで、三台の治療器を使って、足裏、肛門、腹部、背中、胸、腰に各一時間の照射を日課にしているが、大好きな酒とウイスキーを飲みながら元気に過ごしており、術後二年になるが極めて経過は順調である。

(症例三) 50歳 男性 歯科技工士

診断 胃癌の疑い

起始終過 大学病院で胃の検査の結果、組織検査で高度の異型細胞があり、一週間後に手術の段取りを付けるが、何れにしても速やかに手術しないと手遅れになる、と言われたと、平成4年8月21日に相談に見えた。

治療 医師には仕事の都合とということにして、同年9月3日に入院するまでの二週間、光線器二台で、腹部はBDカーボン、腰部はADカーボンで、一日二回、二時間ずつ毎日照射した。

結果 9月3日に入院、直ぐに手術を受け胃を全部取ったが、胃に癌はなく、それ以外にも何の異常所見もなく、担当の医師は、癌の予防のために取りました、と言ったそうである。患者は手術の前にもう一度再検査を

(結語)

現在、腫瘍と診断された場合、主として手術療法に化学療法を併用する治療法が用いられるが、これらの治療に光線療法を併用することは、患者の治療力を高める面から有意義なことと考えられる。

即ち、光線が腫瘍性疾患に及ぼす影響のうち、既に明らかにされている効果には、腫瘍細胞を減らす効果、腫瘍細胞が熱に弱い性質を利用した熱療法としての応用、患者の免疫系を賦活し抗腫瘍効果を増す免疫療法としての作用、癌毒素の中和などがある。

今回、消化器腫瘍の三例に対し、病院の治療に併用する形で光線療法を行い、それぞれ有効と思われる所見を得たことを報告したが、光線療法の評価については今後も症例を積み重ねる必要がある、これからの検討が続けたい。

山形市香澄町

山形サナモア治療院

TEL0236-411-2831

術後に光線療法を行なった乳がんの一例



社団法人 神奈川県療術師会

海渡 一二三

(目的)

乳がんと診断され乳房切除術を受けたが、その際に他の治療(抗癌剤による化学療法や放射線療法など)を受けていない治療経過や転移を指摘されていないことから、早期に発見された乳がんの手術成功例と思われる一例で、手術の縫合部に生じたケロイドの治療と乳がんの再発予防を目標に光線療法を行い、これまで十年余の経過を観察したので報告する。

(症例)

症例 48歳 女性 主婦

主訴 手術縫合部のケロイドの治療ならびに乳がんの再発予防

現病歴 昭和56年2月に乳がんのため左乳房の全摘出術を受けた。退院後、通院で治療を続けていたが、全身の強い倦怠感、脱力感、不安感があり、良く風邪を引いて熱を出すなど、体調の優れない状態が続いており、乳がんが再発する不安に脅えていたところに、友人から光線療法をすると良いとすすめられ、手術後三ヶ月を経た昭和56年5月27日に来所した。

来所時、患者は乳がんの再発を極度に恐れており、光線療法による再発予防を特に強く望んでいた。

初診時所見 左乳がん手術後の縫合部の肉芽組織は、赤く隆起し、その表面はデコボコでケロイド状になっており見るからに痛々しかった。また術後の後遺症のため、左手の上下運動や伸展をさせると不自由で、中でも真つすぐ上方に拳上する動作は殆ど出来なかった。なお生来の虚弱体質に加え、胃弱で痩せており、食欲もやや不良であった。

治療ならびに経過 乳がんの再発を積極的に防ぐために、各人が成すことが出来るセルフメディケーションで最も大切なこ

との一つは、年間を通してビタミンDが欠乏しないように常に光線を浴びることに意を用いると共に、カルシウムの不足を起さないように食事に注意することである。この面から考えて、光線療法を続けることは有益な要件になるが、差し当たり手術創のケロイド状になっている肉芽組織の治療で、同時に目的を達成できることを説明し治療を始めた。

治療に用いたカーボン、BとD、AとB、AとAの組み合わせを状態に応じて適宜選択し、同時に二台の治療器を用いて照射した。照射姿勢、照射部位ならびに照射時間は、側臥位で、顔面5分、左右胸部10分、肛門10分、腰10分、膝5分、腹10分、足裏10分、左右背に各5分、次いで仰臥位にして、左肩5分、右肩10分、左右側腹部10分、左右の膝10分、左腋下10分照射した。なお症状、経過に応じて、照射部位を追加したり、照射時間を延長した。

治療を始めてから食欲が増し、活力が出るなど一般状態は著しく改善し、三ヶ月が過ぎた頃には手術の縫合部の赤みが薄れ、

ケロイド状になっていたところが目に見えて消失した。五ヶ月過ぎには、左胸部の引き吊れた感じが軽くなり、八ヶ月目には、左手を真つすぐ上方に拳上する動作が出来るようになり、手術縫合部の傷も殆ど目立たなくなった。

その後も乳がんを予防したいと言う強い患者の意志で通院で光線療法を続けたが、今日までの間に、昭和57年11月には腰痛を訴えたが約一週間の治療で治まり、昭和58年2月には検診で胃のポリプと診断されたが三ヶ月で消失し、昭和61年10月には左腋下のリンパ腺炎を起こしたが約二週間で治癒した。

本例は昭和62年より、健康管理に加え乳がんの再発防止のため、主として自宅で光線療法を続けることにした。その後も時々通院しながら手術後これまで既に十年余を経過したが、現在までの経過はすこぶる順調に推移している。

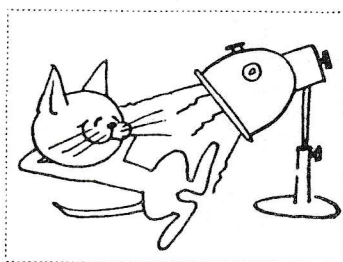
(考察ならびに結語)

近年、わが国に於いて特に増加が著しいがんに、乳がんとは大腸がんがあり、病因について食

事の西欧化の問題を含めてさまざまな角度から論じられているが、これらのがんは地理病理学的に見て、日照に恵まれた南の地方で罹病率、死亡率共に低く、日照時間の短い北で高いと言う疫学的な特徴が、主にアメリカ人を対象に行なったガーランドらの研究によって既に明らかにされている。一方、光線には健康を増進する作用があり、その一つにビタミンDを介して免疫機能を強化する作用のあることが知られている。この点からガーランドは、乳がんや大腸がんの発病率が緯度によって異なるのは、少なくともアメリカ人の場合は食事の差によるのではなく、光線によって生成されるビタミンDならびにビタミンDによって代謝が厳密に規制されているカルシウムの免疫応答調節作用によって、生体の免疫監視機構が強化され、発がん遺伝子を除去することが係わっていると述べている。光医学の視点から、地理病理学的立場からの研究が期待される。

神奈川県川崎市
東京光線治療院
TEL04四一七二二一五〇六七

☆騒音性難聴



—治療例報告—

症例 31歳 男性 会社員

症状 学生時代にイヤホンに当て、音楽を聞きながら勉強する癖がついた。就職して二、三年は、その習慣から遠ざかってきたが、取引先に出向くことが多くなるに連れて、ポケットラジオとかウォークマンを持ち歩きイヤホンを使って聞くようになった。殊に数年前、仕事で気が高ぶって寝付きの悪い時、左耳に差し込んだイヤホンから流れる深夜放送を聞いていて寝付いた経験をしてから、毎晩のように聞いていた。

そんなある朝、目覚めると左の耳の奥でザワザワした音が聞こえ、出勤してから電話の音が聞こえにくかった。その数日後、洗面して右の耳を押さえると、左の耳が聞こえないことに気が付いた。

そのため耳鼻科で診て貰った

が、イヤホンを常用したことが原因の難聴で、通常の可聴音でも強さと持続時間が限度を超えると聴力障害を起こすと言われ、騒音性難聴と診断され、治療は困難であり、薬、手術とも効果は期待出来ない。そこで、イヤホンの使用を止め、自然に治るのを待つしかないと言われた。患者は学生の頃、祖母のカーボンを買いに来たことがあり、光線療法に一縷の望みをいだいて来所したが、光線療法で回復すると約束出来ないこと、陽性反応で一過性には悪くなるかも知れないこと等々、時間を掛けて話し治療することにした。

療法経過 BDカーボンをを用い、集光器を使用して、左耳正面から10分、耳介を指で前に倒して耳の後方に20分照射し、その日は事情があつて終わりにした。

次の日は、前日の照射部位に加えて、右耳10分、後頭部10分、鼻10分、喉10分、腹10分、外にABカーボンで膝5分、足裏10分照射し、次の治療は三日後にすることにした。

翌日、電話があり、微かに聞こえていた左耳が全く聞こえないと不安を訴えたが、陽性反応と思うから心配はないと応えた。約束した日に来所し、電話した翌日には少し聞こえる状態に戻ったと言う。五回目に来所した時、その二日前から、耳の奥でガサッ、ガサッと音がするよう

になり、午前中は左耳で相手の声が微かではあるが聞き分けられるが、午後は元の聞こえない状態に戻ってしまうと言っていた。六回目の治療を終えた二ヶ月後の電話で、二、三メートル離れたテレビの音声が、左耳でも微かだが聞き分けられ、ザワザワした耳鳴りも非常に小さくなり、仕事でも気にならなくなつたと報告があつたが、翌日から十日間出張するので、治療が途切れるのが不安だと言っていた。

その十二日後に来所した。出張中は動き回っていたが支障なく過ごし、何の手当てもしないのに、一日と左耳の調子が良くなるのをはつきり感じたと言ふ。出張を終えて帰る頃には、左耳の耳鳴りがすっかり無くなっているのに気付いて驚いたが、これが体内に蓄積された光線の治療力を促す効果だ、と分かつたと言つて、左右の耳道を手で交互に塞ぎながら、自己診断では左耳の聴力の九十パーセントは回復したと喜んでくれた。

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

TEL〇七八一三三二一三三八

☆前立腺肥大症

症例 73歳 男性

症状 尿意をもよおしても尿が出にくく、下腹に力を入れて腹圧を加えても、すぐ出なかった

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセッとしたり、サナモアA、B、C、Dと効果が同じという根拠もないうたい文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、ご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています)

東京光線療法研究所

り、出ても尿線が細く、排尿に時間がかかり、時に尿が溜ると漏れる失禁状態になった。そのため診察を受けたが、前立腺肥大症と診断され、手術をした方がよい、と手術を薦められた。しかし手術はしたくなかつたので、この事を知人に話したら、光線療法を受けて見たらと薦められた。なお腰の左側に痛みがあり、その治療も合わせて依頼された。

療法経過 同時に二台の治療器を使い、BDカーボンを組み合わせて照射した。照射部位は、側臥位で、肛門部(会陰部)30分、下腹部20分、腰15分、足裏15分、後頭部5分、次いで仰臥位で、左右肩5分、左右側腹部10分、左右膝外側5分照射した。

に行き排尿したが、何時もより尿の出が良くなったようだと言ふので、これなら続けて様子を見ようと言ふことになったが、たまたま遠方に居住していたため、毎日通院するのも大変なので、光線治療器を求めて主として自宅で治療し、時々通院することにした。なおその際、治療は必ず毎日行うこととし、出来るだけ膀胱に尿を溜めないようにするため、トイレには極力頻回に行くように話した。

患者は治療を始めて一ヶ月経った頃から、尿の出が良くなり、今日に至るまで排尿は良好に経過している。そのため病院でも手術は見合わせると言っているとのことである。

川崎市 東京光線治療院
海渡 一二三氏報告
TEL〇四四一七二二一五〇六七

サナモアに縁あり

て四十一年

神戸市長田区腕塚町
島 敏子

サナモア体験談

主人の病を癒す

サナモアを初めて知ったのは昭和27年の6月です。主人が神経衰弱になり、悩む日々を過ごしていました。診察を受けた医師は、「直ぐには治らないから環境を変えるために田舎にでも行って、気長に養生するしかないね。」と言いました。私は二人の幼子連れで、何も手に付かず、先は真暗でした。そんな時、母の友人がサナモアを教えたのです。早速、薬をもつかむ思いで、主人と上野光線を訪ねましたが、亡き上野貞先生が話を聞いて下さり、サナモアについて詳しく説明してくれました。その上で

「必ず治る。」と太鼓判を押してくれたのです。

それから上野光線での光線療法が始まり、一ヶ月程通った頃、食事が進み、良く眠れるようになったのです。私は真暗なトンネルの向こうに小さな灯りが見えたようで、嬉しくなって先生に話しましたら、「良かったね。」と心から言ってくれました。その後、光線治療器を購入して毎日朝夕照射しました。三ヶ月目には回復が目に見えてはつきり分かり、五ヶ月で自営業の職場に完全に復帰し、完治を確信出来たのです。

とても嬉しくて、上野先生のところ二人で御礼に参上しました。先生は大変喜ばれ、「おめでとう。始めて来た時とは別人のようになって、本当に良かったね。人生はまだまだこれからなのだから、頑張ってくださいよ。」と励まして下さいました。

私の治療体験

主人の病が癒えて、私は上野先生の許で光線療法について学びましたが、これまでに数々の貴重な体験をしました。その中から、身辺で起きた幾つかを紹介したいと思います。

(体験例一)

私自身の体験です。盲腸炎になった時、先生に照射法を教えて貰いながら一週間で治りました。

(体験例二)

長男が十歳の時、肺炎をこじらせ肋膜炎になりましたが、一年間の照射で完治。次に十八歳の時、身体検査で腎臓病と診断されましたが、この時も一年間の照射で完治しました。その後はサナモアで病知らずの健康体になり、風邪を引くこともなく、嫁と孫と元気に過ごしています。

(体験例三)

十四歳の女子が顔面神経麻痺になり、医師の治療を受けましたが長引くと言われ、サナモアのことを知っていたので相談にしてみました。私は必ず効果はあると思い、上野先生にも相談して照射しましたが、三週間で完治し、医師も不思議だと驚いていたそうです。

(体験例四)

昭和32年の夏休みのことです。十一歳の長男と九歳の次男の二人の息子が夜中に苦しがって目を覚ました。熱を計ったら、ウワー40度、その上、血便。私は先生が「健康は何よりの宝。だけど生身の身体だから、どんな事が起こらんと制限がない。まして幼子が居るとね。何かあったら夜中でもいいから電話しなさい。」と言って下さっていたことを思い出して慌てて電話をしました。電話に出た先生は気持ち良く応じてくれ、「そりゃ大変だ。よろしいか。私の言う通り照射しなさい。」と詳しく教えてくれたから、「大丈夫だから頑張るのよ。」と言ってくれました。私は二人に必死の思いで懸命に照射しました。一昼夜が過ぎ、やっと熱が37度に下がりました。それから朝夕一時間ずつ三日間照射して平熱になり、食欲も出てきて安堵しました。それから日に日に元気になり、十日間で完全に良くなりました。

(体験例五)

次男が五歳の六月のことです。煮立ったヤカンの湯を膝から下にかけて、すっぱりと大火傷をさせてしまいました。すさまじく泣き出したのに吃驚して、手早く上向きに寝させ、BBで照射したら、一時間で泣きながら寝てしまいました。そして横にして、後ろから一時間、それから右横から、左横から各一時間ずつ照射している内に痛みは止まったらしく、目覚めた時に、「痛い。」と聞くと、「痛い。」と言うけど、ひと先ず痛みは落ち着きました。熱を計ったら38度あり、冷たい飲み物を欲しがりました。

それから毎日、朝昼晩、二時間ずつ照射しました。その結果、十日間で乾いてジクジクしなくなり、二十日で皮がポロポロ取れ始め、三十日できれいに取れましたが、火傷の跡が地図のようにになりました。

このことを先生に話したら、「大丈夫、日がたてば消えますよ。」と言われましたが、本当に半年であの大火傷が何事もなかったように完治しました。お見舞いに見えた幼稚園の先生も吃驚され、「不思議なほど効く治療法ですね。」と言って下さいました。

今では跡形もなく、すね毛も立派に生え、当人も喜んで居ますが、そのせいか結婚する時に、「何は無くともサナモアだけは是非欲しい。」とねだられ持たせました。健康が何よりの宝と、嫁も、孫も、家族揃って、風邪引いた、捻挫した、擦りむいた、と言っては重宝して喜んで使っています。

むすび

サナモアと縁あってから四十一年間に、治療器を百台程世話しましたが、皆さんから感謝されており、まだまだ他に心に残る忘れられない体験も数多くあります。私の内孫や外孫にしても、物心が付いた頃から、箸が転んでも、「光線、光線。」と言います。このようにサナモアに縁がありましたことの尊さは、筆舌に尽くし難い感銘です。サナモアは我が家の大切なドクターとして、四十一年間、本当に有難うございました。

(八ページにつづく)

健康はサナモア

光線で



榎原市東坊城町
棟 晴美

主人は二十三歳の頃から、十二指腸潰瘍の再発を何度も繰り返していました。三十八歳になった昭和六十二年には、春先から胃の具合が悪く、夜中に胃の痛みで目を覚ます日が続きました。主人はいつもの再発と思い、かかりつけの病院で診察を受けましたが、透視でいつもと違う影が出たとショックを受けて帰宅しました。大学病院を紹介するから精密検査を受けるようにと言われた主人の落胆は言うまでもありませんが、二人の幼子を抱え、どうすれば良いか、主人をどのように勇気づければ良いか、私は途方に暮れました。

神戸に嫁いでいる姉にこの話をしたら、光線療法を薦められ、姉が世話になっているウエノ光線で指導を受けることになりました。その上で入院までの一ヶ月余り、足裏、膝、肩、背中、腹、胃、腰、胃裏と、一回に二時間

近く、一日に三回照射しました。入院手術を受けた後で、担当医から、「レントゲンを見て思っていたより大変小さな腫瘍でした。」と話がありました。私達も、「ここです。」と言われなければ分からないほどでした。退院後も一日に朝夕の二回照射しました。その後の診察でも手術の傷痕が早くきれいに治るのを見て、先生も「このような方は珍しい」と驚かれたほどです。主人も光線は良いのだと思い、毎日、根気よく照射し、今年で五年になります。今の健康は光線療法のお陰と確信しているようです。五年前の暗い日々を思えば、サナモアは身体にも心にも光を与えてくれたと感謝しています。

サナモアと私



神戸市灘区篠原北町
清瀬 陽子

昭和五十九年の暮、子宮筋腫の手術は盲腸炎の手術の次に簡単で、二週間で退院できると言

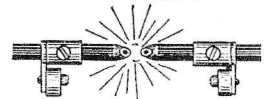
われて手術入院をしました。しかし開腹して思わぬことが起こりました。超音波検査でも分からなかったソフトボール大の腫瘍があり、背中側の腹膜に癒着していて大出血する恐れがあるため、一旦子宮だけ取って閉じたのです。

その後に再手術のため再入院しましたが、前回の手術の時の輸血で血清肝炎にかかっており、肝臓が治るまで手術は見合わせることにになりました。丁度、長女の大学受験、長男の高校受験が重なり、病院にいても気が気ではありませんでした。入院期間は半年に及びました。

そんな時に実家の母から、光線療法で自宅養生すれば必ず良くなると励まされ、肝臓は治っていますでしたが退院しました。それから一日、三回、A D、B Dカーボンで懸命に照射しました。

それから卵巣腫瘍、腹膜腫瘍と次々に発病し、すっかり精神的にも参ってしまいました。上野先生や母に力づけられ、何とか乗り越えられました。サナモアのお陰で何度も手術すべきところを助けられ、今はすっかり健康になって働けることを感謝しています。これからも健康維持のため光線を当てていきます。

サナモア



Sanamoa

サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従って、目に見えない可視光線だけでなく、目には見えないが無くしてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL(03) 三三九三-五二八

(本紙の無断転用を禁止します。)